

NCC HEADLINE

【日本キリスト教協議会 最新情報】 毎月 21 日付に掲載

国際クィア・キリスト者連帯会議に参加者派遣 つながり求めて

台湾の同光同志長老教会は、2026年5月5日に創立30周年を迎えたことを記念し、5月1日から3日にかけて台北市内で「国際クィア・キリスト者連帯会議（Queer Christian Alliance Conference）」を開催しました。アジア地域のLGBTQ+キリスト者ネットワーク「アンプリファイ（Amplify Asia Pacific）」の協力のもと、シンガポール、香港、台湾、フィリピン、タイ、日本、韓国をはじめ、オーストラリア、カナダ、アメリカなどから、LGBTQ+を肯定する教会の信徒・牧師・アライ（ally）約100名が参加しました。日本からは、日本キリスト教協議会（NCCJ）の助成を受けた3名、自主参加の1名、そしてゲストスピーカーとして招かれた1名、合わせて5名が出席しました。

会議は「神とのつながり」（牧会的ケアと霊的支援）、「社会とのつながり」（相互支援と共生）、「自分自身との和解」（癒やしとセルフケア）の三つを主題として構成され、これに沿って「関係・欲望・身体」「持続する関係を築くために」、「霊性と感情のセルフケア」「インターセックスとバイセクシュアルを理解する」といったテーマの分科会が持たれました。また、アメリカから、聖書翻訳の歴史を扱ったドキュメンタリー映画『1946—文化を変えた誤訳（1946 :The Mistranslation That Shifted Culture）』の監督と製作チームが来訪し、同作品を軸としたセッションも設けられました。

各地域のLGBTQ+当事者たちが、それぞれの直面する困難



発題者と同光同志長老教会 陳小恩牧師（右端）

と、それに立ち向かう歩みを分かち合う時間には、涙する場面も少なくありませんでした。言葉も、教派も、暮らす場所も違うけれども、LGBTQ+として教会で経験してきた痛みと苦しみは共通していることを、会場全体が肌で感じ取る時となりました。

30周年記念礼拝では、各国のLGBTQ+牧師たちが共同で聖餐式を司式しました。制定の言葉はそれぞれの言語で語られ、ぶどう酒に代えて台湾茶が、パンに代えて芋が配餐されました。アジアの地におけるイエス・キリストとのつながりを、心と体の双方で実感させられる、感動的な聖餐式でした。各国のための祈りの言葉も準備され、一同が心を合わせて、互いのために祈り合いました。

同光同志長老教会は、迫害や孤立の中にありながらも30年にわたり、LGBTQ+があらひのままで信仰生活を送ることのできる場所を守り続けてきました。今回の会議は、その歩みをアジア各地の仲間とともに祝うと同時に、アジアにおける、より包摂的なキリスト教会の連帯を確認する場ともなりました。今回の国際会議で得た感動と経験をもとに、日本でも、LGBTQ+と共に歩む教会の輪を広げたいと願っています。

NCCジェンダー正義ワーキンググループでは、今回の会議の報告会を8月18日（火）午後1時半からオンラインで開催します。ぜひ、ご参加ください。（上野玲奈 うえの・れいな＝日本基督教団、NCCジェンダー正義ワーキンググループ）

【主催・共催集会】

*詳細はNCCホームページのニュースをご覧ください。Facebookでも案内しています。
■第47回ウクライナを覚えて平和を祈るキリスト者祈祷会 7月24日（金）後8時～8時45分、オンライン。日本カトリックいのち・平和・人権委員会、平和を実現するキリスト者ネット、NCCの共催。

■NCC連続学習会「朝鮮半島の平和と統一 日本教会と在日教会の歩みと課題」第2回 7月25日（土）後1時半～3時、日本キリスト教会館4階会議室（東京都新宿区）とオンライン、要申込。参加費500円。

■第2回人権文化セミナー「芝浦と場とお肉の情報館見学&と場労働者との懇談」8月17日（月）～18日（火）芝浦と場・お肉の情報館（東京都港区）、NCC部落差別問題委員会主催、定員あり、要申込。

■国際クィア・キリスト者連帯会議オンライン報告会 8月18日（火）後1時半～3時、NCCジェンダー正義WG主催、要申込。

■関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者103年キリスト者追悼祈祷会 8月30日（日）後3時～5時、富坂キリスト教センター（東京都文京区）とオンライン。NCC東アジアの和解と平和委員会が呼びかけ。

【委員会など】

■7月27日（月）関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者103年キリスト者追悼祈祷会準備会

■7月29日（水）URM委員会

■8月3日（月）靖国神社問題委員会

■8月6日（木）「障害者」と教会問題委員会

■8月20日（木）委員長会

アジアのエキューメニズム
新たなビジョンを求めて

5月28日から6月5日にかけて、タイ・チェンマイでアジア・キリスト教協議会（CCA）のプログラム委員会、「アジアのエキューメニズム」に関する国際会議、常議員会が開催され、日本からはプログラム委員会に筆者、常議員会に鄭詩温氏（在日大韓基督教会）、国際会議には両名が参加しました。

プログラム委員会では、この2年間に実施された40余りのプログラムを検証するとともに、今後の事業計画を協議しました。特に、青年の出会いと協働を促すオンライン・リーダーシップ研修や、アジア・エキューメニカル・インスティテュート（AEI）のあり

方について活発な意見が交換されました。AEIは、アジア各地の青年が約1カ月間、共同生活を送りながら、教派や民族を超えて祈り、学び、交流するプログラムです。若い世代がキリスト教の多様な伝統に触れる意義を実感すると共に、日本からもぜひ参加者を送りたいと感じました。

続く国際会議では、「草の根のエキューメニズム」、教会一致、宗教間対話、ディアスポラ（移住者）教会などをテーマに、約70名が参加して議論を重ねました。基調講演ではCCA議長が、アジアのキリスト教を取り巻く状況が大きく変化する中、「新たなエキューメニカル・ビジョン」が求められていると呼びかけました。その言葉を裏付けるように印象深かったのは、移住者や社会的マイノリティの立場にあるキ

リスト者の証言です。エジプトからオーストラリアへ移住したコプト正教会の聖職者や、ニュージーランドのマオリのキリスト者が、自らの文化やアイデンティティを大切にしながら教会の一致を模索する歩みを語りました。アジアのエキューメニズムは、国境を越えて生きる人々、搾取や差別の構造の中で生きる人々の経験を抜きにしては語れないことを実感しました。

常議員会では、韓国の文貞恩（Grace Moon）氏の総幹事就任式が行われました。新しいリーダーシップのもとで、東アジアが抱える脱軍事化と平和、歴史認識、排外主義などをめぐる課題にも、CCA全体の関心が向けられることを期待します。（大嶋果織 おおしま・かおり＝日本基督教団、NCC総幹事）



NCC ホームページ <https://ncc-j.org/> Facebook 日本キリスト教協議会 TEL 03-6302-1919 FAX03-6302-1920 Email general@ncc-j.org
郵便振替 00180-4-75788 加入者名 日本キリスト教協議会

AVACO視聴覚教材展と
公開講座を開催します

NCC教育部は「子どもと聖書とエキューメニカル運動」検証プロジェクトの事務局を日本聖書協会視聴覚部と共に担当しています。このプロジェクトは、NCCエキューメニカル協働基金助成を受けて2025年度から2年にわたって取り組んでいるもので、目的は、戦後のキリスト教幼稚園や学校、日曜学校・教会学校で用いられたAVACO（キリスト教視聴覚センター）の紙芝居や絵ばなし、フランネルグラフなど、紙媒体の教材が果たしてきた役割について検討し、デジタル化社会におけるキリスト教のコミュニケーションのあり方を探るというものです。NCC教育部、日本聖書協会のほか、NCC信仰と職制委員会、NCC神学・宣教委員会、日本盲人キリスト教伝道協議会が参加しています。

このたび、2025年度の報告書が完成しました（A4判、56頁）。ここには、以下の記録が収録されています。

1. 絵ばなし大会（演者 木村誠甫）、2. 公開講座①「視聴覚教材の歴史から、その魅力と意義を知ろう！」（講師 木村誠



AVACOの紙芝居（1978年）

甫）、3. 公開講座②「視聴覚教材が子どもたちに贈るもの」（講師 木村誠甫）、4. 公開講座③「ろうそくものがたり～藤本四郎さんに聞く紙芝居にこめた思い」（お話 藤本四郎、聞き手 本田愛子）、5. 公開講座④「視聴覚教材とNCC－NCCはなぜ視聴覚教育事業を始めたのか」（講師 西間木公孝）、6. 公開講座⑤「視聴覚教材と日本聖書協会－聖書普及事業にとっての視聴覚教材とは」（講師 飯島克彦）

完成度の高い動画が当たり前の時代に、紙媒体の視聴覚教材が果たす役割を再考する報告に加えて、敗戦後から1950年代にかけての日本キリスト教協議会や日本聖書協会の活動の一端を知ることでもあります（1冊500円+送料実費、申し込みはNCC教育部まで）。2026年度の活動は、AVACO視聴覚教材展と3回の公開講座を計画しています。ご参加をお待ちしています。（河内理恵 かわち・りえ＝日本バプテスト連盟、NCC教育部主事）

新しい総主事に富田直美が着任

7月よりNCC教育部の総主事に富田直美が着任しました。共に平和と共生社会の実現を目指してキリスト教教育の推進に努めてまいります。（NCC教育部事務局）



【協力・後援集会】

*詳細はNCC教育部ホームページ「集案内」をご覧ください。

■「子どもと聖書とエキューメニカル運動」検証プロジェクト主催・AVACO 視聴覚教材展 8月1日（土）～9日（日）、教文館3階ギャラリー・ステラ（東京都中央区）。無料、自由観覧。8月2日（日）後2時～4時ほかNCC教育部スタッフによる紙芝居上演、8月9日（日）後3時～5時 木村誠甫による絵ばなしなどの上演。

■第7回公開講座（同プロジェクト主催）8月1日（土）後2時～3時半、講師・東義也（尚絅学院大学教授）、教文館3階ギャラリー・ステラ+オンライン。有料、要申込。第8回公開講座 9月5日（土）後2時～3時半、講師・菊野秀樹（比治山学園短期大学教授）、日本キリスト教会館4階会議室（東京都新宿区）+オンライン。

■平和のきずな献金先 JOCS の活動を知る会 9月26日（土）後1時半～2時半、NCC フリースペース（東京都新宿区）+オンライン。無料、要申込。



NCC 教育部 ホームページ <https://nccj-edu.jimdofree.com/> TEL/FAX 03-3203-0731 Email nccjedu@gmail.com
郵便振替 00150-8-98713 加入者名 日本キリスト教協議会教育部

NCC HEADLINE

【日本キリスト教協議会 最新情報】

で緊急支援
を行うと共

さらに、気候変動、貧困、人権、難民問題などについて、国際社会や各国政府に対する政策提言にも積極的に取り組んでいます。

NCCは2019年にジャパン・フォーラムを立ち上げ、近年増加する自然災害への支援活動と、防災のための教会と地域を結ぶネットワーク作りに取り組んでいます。諸外国の支援活動への募金の協力のために資金調達も行っています。

世界が分断や対立を深める時代に、教会が国境や教派そして宗教を越えて協力し、平和と希望を届けるACT Allianceの働きは、ますます重要になっています。祈りと献金、そして関心をもってこの働きを支えることは、世界の隣人と連帯する私たち一人ひとりの信仰の実践でもあるのです。

(藤守義光 ふじもり・よしみつ＝日本キリスト教会／ACTジャパンフォーラム事務局)

教会が世界とつながる エキュメニカルな支援の輪

世界各地で戦争や紛争、自然災害、気候変動による被害が深刻化する中、教会はどのように苦しむ人々と連帯することができるのでしょうか。その重要な働きを担っているのが、ACT Alliance（アクトアライアンス）です。

ACT Alliance（Action by Churches Together Alliance）は、世界最大規模の人道支援と開発を行うキリスト教ネットワークです。その働きは、世界教会協議会（WCC）とルーテル世界連盟（LWF）によって1995年に始められました。現在では160を超える加盟団体が120か国以上で活動し、災害や紛争の被災地

に、地域社会の持続的な発展や平和の実現に取り組んでいます。多くの加盟団体はプロテスタント教会や正教会を背景としていますが、宗教や民族、国籍にかかわらず、支援を必要とするすべての人々を対象とし、「隣人を愛し、苦しむ人とともに歩む」というキリスト教の信仰を具体的な行動として表しています。2012年に日本キリスト教協議会は正式加盟しました。

ACT Allianceの活動は、「人道支援」「開発」「アドボカシー（政策提言）」の三つを柱としています。大規模な地震や洪水、難民危機などの際には、加盟団体が現地の教会や地域団体と連携し、食料や医療、避難所の提供などを迅速に実施します。また、生計支援、教育、保健、ジェンダー平等など、地域が自立して歩んでいくための長期的な支援も行います。



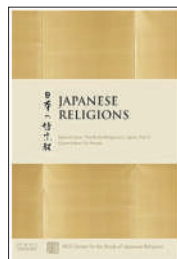
ACT ジャパンフォーラム ホームページ <https://ncc-j.org/actjapanforum/> Email actjapanforum@ncc-j.org

三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店 普通 2255233

異なる宗教や文化への理解を育む 『Japanese Religions』

NCC宗教研究所は、1959年にスカンジナビア宣教師会が京都修学院に事務所を置いていた諸宗教研究所の働きを、日本キリスト教協議会に委ねたことから始まります。他宗教の研究また他宗教の人々との対話は、第二次大戦後の新しい時代において、日本のキリスト教会が全体的に取り組む形にすることが望ましいと考えられたのです。初代所長はデンマーク人のハーリー・トムゼン宣教師でした。

活動の柱の一つは、英文学術誌『Japanese Religions』の刊行です。1959年の創刊以来、一貫して日本の宗教に関する研究成果を国内外へ発信し、日本と海外の研究者を結ぶ学術交流の場、また、宗教への理解を深めるための対話の場であってききました。



学術出版を取り巻く環境は、この十数年で大きく変わりました。そこで私たちは最近、いくつかの新しい試みを始めました。その一つが研究所ウェブサイトの開設です。現在、『Japanese Religions』と『NCC宗教研究所ニュース』を順次公開しており、どなたでも自由に閲覧できるアーカイブの整備を進めています。多くの方々に研究所の活動を知っていただくための場として育てていきたいと考えています。

もう一つは、オープンアクセス出版への取り組みです。今日の学術誌には、購読料によって運営されるものや、著者が掲載料を負担するものが少なくありません。そのような中で、『Japanese Religions』は、図書館などの支援を受けながら、読者にも執筆者にも負担を求めない形で刊行を続けています。

学術研究の成果は、広く社会に開かれていることが大

切です。それは、キリスト教の働きとして大切にしていた「分かち合い」の精神にも通じます。また、宗教間対話も、互いを知り、学び合うところから始まります。そのため、本誌に掲載された論文は、J-STAGEを通じて公開するとともに、国立国会図書館にも所蔵され、国内外を問わず自由に利用できる環境を整えています。

写真は『Japanese Religions』の最新号の表紙です（2025年4月刊行）。約30年親しまれてきたデザインを見直し、伝統を大切にしながら、現代的な印象を取り入れました。デザインはクラウディオ・バド・アントゥーニャ氏によるものです。この号のテーマは「日本の宗教における身体」で、7編の論文と4本の書評が掲載されています。これからも『Japanese Religions』が、日本と世界を結び学びと対話の場として歩みを続けていけるよう、研究所の活動を進めてまいります。

(エスベン・ペーターセン＝NCC宗教研究所副所長)



NCC 宗教研究所 ホームページ <https://nccisjpnew.wixsite.com/nccisjp> Facebook NCC Center for the Study of Japanese Religions (Kyoto)

T/F 075-366-2421 Email studycen@mbx.kyoto-inet.or.jp 郵便振替 01060-6-2555